

## 参考事例調査資料

参考資料として、次の国内及び米国の調査事例の「施設・運営の概要」、「ボランティア制度の概要」を整理した。

1. 喜多方プラザ文化センター
2. 中島町文化センター・能登演劇堂
3. 武生市文化センター／武生国際音楽祭
4. いまだて芸術館
5. 大阪府立青少年会館・プラネットステーション
6. たんば田園交響ホール
7. 春日市ふれあい文化センター
8. THE SYMPHONY SPACE
9. SNUG HARBOR CULTURAL CENTER
10. The KENNEDY CENTER FOR THE PERFORMING ARTS
11. AUTUMN STAGE
12. THE PUBLIC THEATER
13. MAYER'S VOLUNTARY ACTION CENTER

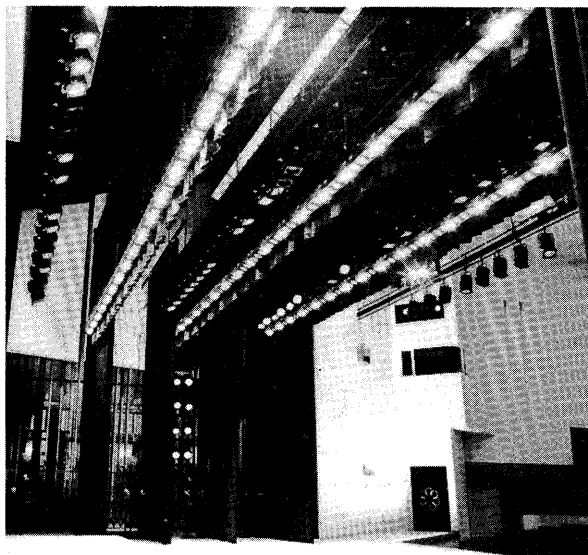


## 1. 喜多方プラザ文化センター

公共ホール・劇場の舞台・音響・照明など「うらかた」に特化したボランティアとして全国的にも早い時期に導入され、1983年以來10年以上の活動歴がある。「日本舞台研究者連絡会」事務局。「うらかた」以外にも市民による複数の企画・鑑賞団体が組織されている。

### 施設・運営の概要

運営母体	喜多方地方広域市町村圏組合
所在地	福島県喜多方市字押切川向 5364-1
TEL	0241-24-4611
FAX	0241-24-4611
開館年月	1983年11月
複合形態	複合施設
施設特性	音楽ホール
座席数	大ホール1176席、小ホール400席
自主事業予算	年間2,500万～3,600万円
自主事業数	年間20本（平成6年度）
立地都市人口	37,227人
組織体制	8名（プラザ運営専任スタッフ4名、兼務者4名の計8名が通常の運営スタッフ。中央公民館を併設しており、自主事業等の大きな催しは公民館専任職員を含む14名で対応する。）



### ボランティア制度の概要

名称	・舞台研究会「うらかた」
導入時期	・1983年7月
登録人数	・約40名（うち女性5名。年齢層は30～40代、三分の一は設立当初からのメンバー）
導入の経緯	・もともとは、裏方の技術スタッフがいなかったことがきっかけ。舞台芸術に関する技術の研修を行い、技術協力を積極的に行って、喜多方地方広域市町村圏内における文化活動発展に寄与することを目的に設立された。
活動内容	・舞台・音響・照明等
募集方法	・公募、口コミ
研修	・喜多方プラザの技術職員による研修、他ホール等への研修旅行など
実費支給	・あり。半日、昼間、全日 各5,000円、7,000円、10,000円。報酬の5%は舞台研究会「うらかた」の事務局に戻入。
その他	・「うらかた」が実際にオペレーションを行うのは地元の出演者による催しがほとんど。プロの公演の時には通常主催者側でオペレーターを連れてくる。 ・年間の公演回数は50～60回。各回ごとに仕込み、リハーサル、本番や打ち合わせがある。

## 2. 中島町文化センター・能登演劇堂

能登中島町は、仲代達矢氏の「無名塾」との密接な関係がきっかけとなって、能登演劇堂を設立。舞台芸術アカデミーという舞台技術講習受講者が、裏方のボランティアを務めているが、それ以上に自主事業の企画からチケット販売、運営までを手がける「能登演劇堂振興協会」という市民組織の存在が特徴的。ホールの運営そのものに深く踏み込んだ市民組織としてのボランティアの可能性を示唆している。

### 📖 施設・運営の概要

運営母体	中島町・能登演劇堂振興協会
所在地	石川県鹿島郡中島町字中島甲部 130
TEL	0767-66-2323
FAX	0760-66-2326
開館年月	1995年5月
複合形態	複合館（図書館、公民館と併設）
施設特性	演劇劇場
座席数	651
自主事業予算	年間 3,000～5,000 万円
自主事業数	年間 11 本 21 公演（平成八年度）
立地都市人口	8,541 人
組織体制	総務系:2、企画系:4、技術系:2／計 8 （全て自治体職員）



### 😊 ボランティア制度の概要

名称	<ul style="list-style-type: none"> <li>①：舞台芸術アカデミー（舞台の裏方業務に関する講座名、ボランティアとしての名称は特になし）</li> <li>②：能登演劇堂振興協会（自主事業の実施・運営主体）</li> </ul>
導入時期	・開館当初から（講座は開館前から実施）
登録人数	<ul style="list-style-type: none"> <li>①（アカデミー受講者）：15名（半数は町の職員）。</li> <li>②：協会委員約30名、役員12名。</li> </ul>
導入の経緯	<ul style="list-style-type: none"> <li>①：施設オープン前から鹿島町と共同で「舞台芸術アカデミー」を開講。町民参加による劇場運営のため受講生のボランティアで裏方業務に対応。</li> <li>②：能登演劇堂の活用を促進し、企画面やチケット販売面で民間の知恵や力を借りるために設立。</li> </ul>
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>①：照明・舞台・音響（現在3期目のアカデミーの受講と自主事業での研修・補助が主）</li> <li>②：自主事業の演目の検討、広報・宣伝、チケット販売、友の会会員勧誘、協賛金集め等</li> </ul>
募集方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>①：公募。</li> <li>②：委員は町内の各種団体の代表者。</li> </ul>
研修	・①：舞台芸術アカデミーの受講。
実費支給	・①：なし。*もぎり会場整理は別に有償ボランティア（女性10名、時給1,000円）を導入
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10年間中島町で稽古を続けてきた「無名塾」の活動の延長線上で劇場が設立された（仲代達矢氏が監修）。</li> <li>・能登演劇振興協会が能登演劇堂友の会を設立し、演劇愛好家の拡充と入場者の安定を図るとともに、演劇を核としたまちづくりを推進している。</li> </ul>

### 3. 武生市文化センター／武生国際音楽祭

武生市文化センターを中心に開催される「武生国際音楽祭」は、民間ボランティアによる実行委員会によって運営されている。各実行委員の役割など文化施設主導型のボランティア活動とは運営のしくみが異なるだけでなく、フェスティバルという年間のある一定期間に集中した事業に対するボランティアである点にも注目したい。

#### 施設・運営の概要

運営母体	(財)武生市文化振興財団・施設管理事業団
所在地	福井県武生市高瀬 2-3-3
TEL	0778-23-5057
FAX	0778-21-1975
開館年月	1980年9月
複合形態	複合館
施設特性	多目的ホール
座席数	大ホール 1196 席、中ホール 726 席 小ホール 220 席
自主事業予算	年間 1,000 万円（国際音楽祭は除く）
自主事業数	年間約 10 本（ 〃 ）
立地都市人口	70,161 人
組織体制	9 名（総務 3、企画 2、技術 3、その他 1）



#### ボランティア制度の概要

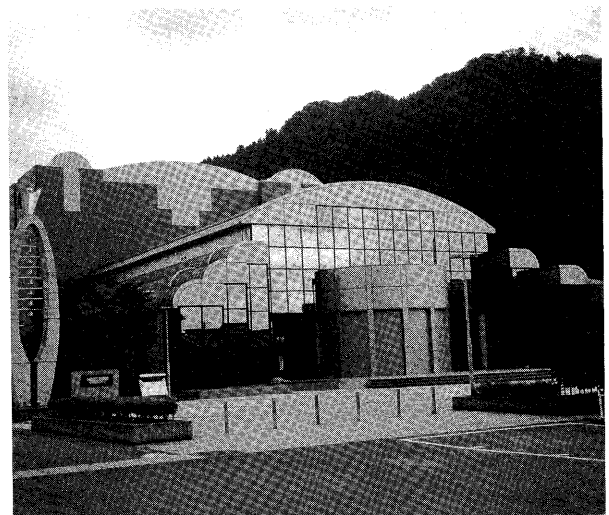
名称	・武生国際音楽祭推進会議（毎年9月に組織）
導入時期	・1990年
登録人数	・60名
導入の経緯	・第1回武生国際音楽祭開催のための実行委員会（武生市主導）が組織され、その委員会に市民がボランティアとして参画していた。その後次年度以降の音楽祭継続に向けて、ボランティアのみの実行委員会を組織。実質的な音楽祭の実施・推進・主催団体となる。
活動内容	・企画・制作、広報・宣伝、受付・案内、教育普及活動
募集方法	・公募（音楽祭開催中のチラシ、市の広報等）、口コミ
研修	・特になし
実費支給	・なし
その他	・武生市文化センター内に推進会議の事務局を設置。ボランティアコーディネーターが総括。 ・①音楽祭開催前、②音楽祭中、③音楽祭後の3段階に分けて体制・業務内容を整理。 ・国際音楽祭の予算は4,500万～5,000万円。財政的な責任まで全て推進会議で負う。 ・会員制の任意団体から、財団化・社団化などの法人化の可能性を模索している。

## 4. いまだて芸術館

住民が企画立案から運営までを行う「企画プロデューサー委嘱システム」と、舞台・音響・照明等のスタッフを委嘱する「技術（AE:アシスタント・エンジニア）スタッフ委嘱システム」の2本立てでボランティアを採用。1991年の開館当初からの採用で、ボランティア・システムとしては先駆的な事例。

### 施設・運営の概要

運営母体	今立町・いまだて芸術館事業協会
所在地	福井県今立郡今立町栗田部 11-1-1
TEL	0778-42-2700
FAX	0778-42-2828
開館年月	1991年11月
複合形態	単独館
施設特性	多目的ホール
座席数	600
自主事業予算	年間3,000万円
自主事業数	年間35本（平成七年度）
立地都市人口	14,859人
組織体制	7名（名誉館長1、館長1、副館長1、職員4）



### ボランティア制度の概要

名称	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画プロデューサー委嘱システム</li> <li>・技術（AE:アシスタント・エンジニア）スタッフ委嘱システム</li> </ul>
導入時期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開館当初から</li> </ul>
登録人数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロデューサーは現在企画数分の15名。但し、各企画に関わる延べ人数は200名程度。</li> <li>・AEスタッフは現在15名。</li> </ul>
導入の経緯	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民参加型の施設運営を目指した町長および初代館長の川津氏の発案。</li> <li>・AEスタッフは当初、ホールの柿落としを契機に募集された町民劇団「綺羅星座」の技術スタッフとして募集され、開館後に追加募集をしている。</li> </ul>
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画・制作、広報・宣伝、舞台・音響・照明、受付・案内</li> </ul>
募集方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロデューサーは、所定の申込書で企画書を提出。採用されれば芸術館の自主事業として位置づけられる。募集は随時。広報誌等に募集記事を掲載（町の広報、芸術館の広報（アートホール31））。</li> <li>・AEスタッフについては前述のとおり。</li> </ul>
研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AEスタッフの技術研修は時々実施（館内研修、館外研修（視察交流））。先輩が新人に伝授する形を採っている。</li> </ul>
実費支給	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AEスタッフのみ1事業の活動に対して5,000円（昼食代含む）を支給。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開館当初と比較してボランティアスタッフが増加していない点が課題。新メンバーを育成する必要がある。</li> <li>・町民の中にはまだ一度も芸術館に足を運んだ事のない人もいる。広く町民に芸術館の活動を浸透させたい。</li> </ul>

## 5. 大阪府立青少年会館・プラネットステーション

大阪府立青少年会館では、青少年の文化活動の拠点施設として平成2年に「プラネット・ステーション」を建設。そこで行われる主催事業は、青少年の手によって企画・運営されるもので、その運営に「イベントすたっふ」というボランティア制度が導入されている。ボランティアというより、青少年が主体になった事業を組み立てることによって、青少年の健全育成を図ることに主眼が置かれている。

### 施設・運営の概要

運営母体	(財)大阪府青少年活動財団
所在地	大阪市中央区森ノ宮中央 2-13-33
TEL	06-942-5146
FAX	06-942-2448
開館年月	1965年4月(プラネット・ステーション1990年12月)
複合形態	複合館(ギャラリー併設)
施設特性	多目的
座席数	文化ホール：1,200 / プラネットホール：140
自主事業予算	年間1,000～3,000万円
自主事業数	年間15本(平成八年度)
立地都市人口	2,599,642人(大阪市)
組織体制	総務系:11、企画系:4、技術系:14、計29 (青少年会館全体)



### ボランティア制度の概要

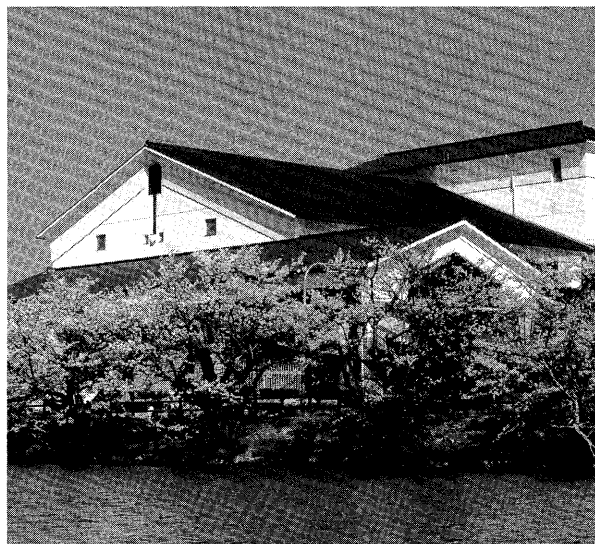
名称	・イベントすたっふ
導入時期	・1994.12
登録人数	・168名
導入の経緯	・主催事業は青少年の企画提案に基づいて、青少年のプロデューサーにより実施しており、その運営業務そのものも青少年の手に委ねて実施するためにボランティア制度を導入。
活動内容	・企画提案、受付・場内整理・観客誘導、舞台・音響・照明の補助
募集方法	・主催事業の企画を募集し、採用された企画の提案者が「チーフすたっふ」となる。その企画内容に基づいて「イベントすたっふ」を募集。
研修	・技術講座(6コース)。
実費支給	・予算の範囲内で活動費(交通費相当)を支給。
その他	・主催事業は、大阪府が総合プロデューサーに委託して実施している。委託先から派遣する形で、イベントすたっふのまとめ役として制作チーフを1名置いている。 ・企画の内容に関して、もっとオモシロイ、若者らしい“やんちゃ”なものが出てきてほしい。

## 6. たんば田園交響ホール

裏方業務を担う「ステージ・オペレーター・クラブ」、もぎり、客席案内などオモテ方の業務を行なう「レディースi」、女性に期待される企画と観客動員を安定させる方策を諮問している「レディース21委員会」という複数のボランティア制度を導入。様々な角度から地域住民がホールの運営を支える試みで、地域に根ざした公共ホールの運営をめざしている。

### 施設・運営の概要

運営母体	篠山町
所在地	兵庫県多紀郡篠山町北新町 41
TEL	0795-52-3600
FAX	0795-52-3646
開館年月	1988年4月
複合形態	単独館
施設特性	音楽ホール
座席数	800
自主事業予算	年間 3,000～5,000 万円
自主事業数	年間 11 本（平成八年度）
立地都市人口	22,590 人
組織体制	総務系:2、企画系:1、技術系:3、その他:1 （全て自治体職員）



### ボランティア制度の概要

名称	・①：ステージ・オペレータークラブ、②：レディースi（アイ）、③：レディース21
導入時期	・1987.10
登録人数	・①：89名、②：36人、③：21人
導入の経緯	・①：舞台技術に対する知識とノウハウを理解してもらうことを目的に、開館の1年前より養成講座を実施（直接的には技術スタッフの業務委託費用の利用者負担の軽減がきっかけ）。
活動内容	・①：舞台・音響・照明／ボランティア会報誌の発行、②：もぎり・案内・パンフレット配布、③：企画・制作
募集方法	・①～③：新聞等で公募。
研修	・①：養成講座15回／年（現在5期生）。
実費支給	・①：午前/午後/夜間各1コマ1,500円、全日4,500円を交通費と食事代として費用弁償。
その他	・地元のアマチュア文化団体の発表会については、公演内容や演出方法をステージ・オペレーターがアドバイスし、徐々に内容が向上している。 ・将来的には、ホールのボランティアが地域コミュニティのコアになってほしい。ボランティア・メンバーがきっかけになって、篠山町では、舞台に立ったことのある人、ホールに来たことのある人の割合は非常に高い。

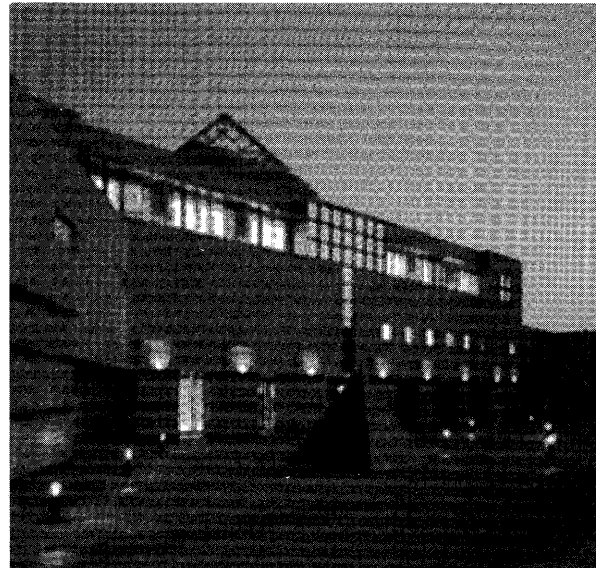


## 7. 春日市ふれあい文化センター

春日市ふれあい文化センターは、福岡市のベッドタウンに立地する複合文化施設。青少年を企画面と運営サポートの両面から、施設運営のボランティアとして取り込むことによって、街全体の青少年の活動を活性化させつつ、地域に密着したホール運営の可能性を模索している。

### 施設・運営の概要

運営母体	(財)春日市文化スポーツ振興公社
所在地	福岡県春日市大谷 6-24
TEL	092-584-3366
FAX	092-501-1669
開館年月	1995年4月
複合形態	複合館（図書館、ホールなど）
施設特性	音楽ホール
座席数	中：600、小：302
自主事業予算	年間1億円以上
自主事業数	年間80～90本（平成8年度）
立地都市人口	約10万人（H8.11.）
組織体制	総務系:6、企画系:9、技術系:2、計17 （技術系2は外部委託スタッフ）



### ボランティア制度の概要

名称	・K's Crew（ケイズ・クルー）
導入時期	・1995年3月
登録人数	・40名
導入の経緯	・市民の顔の見える運営を検討する中で、30歳未満を対象にホールの運営に参画してもらうボランティア制度を導入することとなった。
活動内容	・ボランティアの業務の内容は①公演サポートと②企画協力の二つに分けられる。 ・企画・制作、広報・宣伝、舞台・音響・照明、受付・案内
募集方法	・センター発行のイベント広報紙によって公募。自分のやっみたいイベント等の「企画提案書」を出してもらう。ボランティアとしては基本的に応募者全員を採用。
研修	・とくになし。
実費支給	・公演サポートに関してのみ770円/時間を支給。
その他	・企画協力業務は、アコースティック・トークライブ（地元で活躍するアマチュア・ミュージシャンのコンサート）について出演者探しから、当日運営までを全てボランティアでやっている。 ・将来的にはボランティアが自主事業を実行委員会形式で実施するような形で機能してほしい。

## 8. The SYMPHONY SPACE

廃ビルになっていた映画館を民間デベロッパーが再開発しようとしたことをきっかけに、地域住民が取り壊しの反対運動を起こし、ビルの救済と文化施設としての再利用を訴え、地域住民のボランティアによって劇場に生まれ変わった施設。設立後 20 年が経過した現在では、NPO としての運営が軌道に乗っているが、メンバーシップの勧誘活動を中心に、約 100 名のボランティアが登録され、活動を行っている。

### 施設・運営の概要

運営母体	The Symphony Space
所在地	2357 Broadway (at 95 <sup>th</sup> Street), New York, NY 10025
TEL	212-864-1414
FAX	212-932-3228
開館年月	1978 年
複合形態	単独館
施設特性	音楽、演劇、ダンス等
座席数	820
年間運営予算	年間約 2.2 億円 (200 万 US\$)
自主事業数	年間約 200 本
立地都市人口	731 万人(1992 年)
組織体制	有給スタッフ数



### ボランティア制度の概要

名称	—
導入時期	・1978年（劇場の設立そのものがボランティアによって行われた）
登録人数	・約100名（うち25～30名が積極的に活動）
導入の経緯	・観客ににこやかに接し、メンバーシップの勧誘や、チラシ、公演カレンダーの配布等を行い、シンフォニー・スペースの顔としての役割を担ってもらう。
活動内容	・カウンター業務（友の会メンバー勧誘業務）、ダイレクトメールの発送業務。
募集方法	・ボランティアメンバーによる勧誘（メンバーシップ勧誘用紙にボランティア参加希望の記入欄がある）、プッシュホン電話の問い合わせで参加者名・連絡先を自動録音。
研修	・（誰にでもできる業務なので）特に行っていない。
特典・実費支給	・DM ボランティアは勤務時間が10時間になるとメンバー資格（チケットが2割～半額割引になる）が与えられる。 ・映画会のボランティアは映画が無料で鑑賞できる。
その他	・ボランティア歴5年のボランティアがコーディネーターを務め、スケジュール調整等を行っている。 ・ボランティア参加の動機としては、報酬や役得よりも「This is ours!」、すなわち「この劇場は私たちのものだ」という強い意識に支えられている。

## 9. SNUG HARBOUR CULTURAL CENTER

19世紀初頭、海運業で財を成した実業家の遺志によって建てられた船員のためのリタイアメント施設が、民間ディベロッパーに転売されて商業施設として再開発されるという構想に地元住民が反対。長い歴史を残す建物をそのまま活用するため、市の主導で非営利法人「Snug Harbor Cultural Center」が設立され、文化施設として再利用されることとなった。オフィス内の一般事務やギフトショップの販売員、ツアー・コンダクター、もぎり・客席案内など、年間140名のボランティアが活動している。

### 施設・運営の概要

運営母体	Snug Harbor Cultural Center
所在地	1000 Richmond Terrace, Staten Island, NY 10301
TEL	718-448-2500
FAX	718-442-8534
開館年月	1973年
複合形態	複合館(約34万㎡の敷地に26軒の建物が配置されている)
施設特性	施設ごとに主要用途を特定
座席数	250 (ベテランズ・メモリアル・ホール)
年間運営予算	年間2億8,000万円 (250万US\$)
自主事業数	—
立地都市人口	731万人 (1992年、スタテン島: 39万人)
組織体制	有給スタッフ数: 約70名



### 😊 ボランティア制度の概要

名称	—
導入時期	• (1973年)
登録人数	• 140名 (内約50名がオフィス内の業務に携わっている)
導入の経緯	—
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>• オフィス内: ギフト・ショップ販売員、一般事務アシスタント、DM 発送、電話セールス</li> <li>• 一般催し: ツアー・コンダクター、集客イベントの警備・案内</li> <li>• パフォーミング・アーツ関連: もぎり、客席案内、プログラム配布</li> </ul>
募集方法	• 地元新聞、地域情報紙などの印刷媒体への掲載、ローカルのケーブルTVやラジオ局での広告、センターのニュースレターへの掲載、催し物の開催時に配布する印刷物等により募集。
研修	• 新規ボランティアには年に数回オリエンテーションを開催、個々の詳しいオリエンテーションは各部署の裁量によって開催。
実費支給・特典	• 半額チケットを2枚進呈、サンキュー・ランチ等への招待、交通費は昼食の支給はなし。
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 140名のボランティア組織を管理・運営するため、18名からなる「ボランティア委員会」を設置、任期1年の代表委員によって構成。</li> <li>• ボランティア・コーディネーターは有給スタッフ。</li> <li>• 140人のボランティアがいて初めて運営が成立するため、常に新しいボランティアを採用する努力を続けなければならない。</li> </ul>

## 10. THE KENNEDY CENTER FOR THE PERFORMING ARTS

ケネディセンターは、コンサートホール、オペラ劇場、演劇劇場などが複合された大型文化施設。年間を通して650名のボランティアが登録され、そのうち500名が実際に業務を行っている。また、年に1回行われる「オープン・ハウス・アーツ・フェスティバル」でも、500名近いボランティアが運営を支えている。

細分化された業務内容、完成されたマニュアル、自治構造に基づいた運営体制など、ある意味でアメリカの文化施設におけるボランティア制度のあり方を象徴するような内容となっている。

### 施設・運営の概要

運営母体	The Kennedy Center(スミソニアン機構の一組織)
所在地	Washington, DC 20566-0001
TEL	202-416-8033
FAX	202-416-8205
開館年月	1971年
複合形態	複合館
施設特性	コンサートホール、オペラハウス、演劇劇場などの複合施設
座席数	2,750、2,300、1,100
年間運営予算	年間約100億円(8~9,000万US\$)
自主事業数	—
立地都市人口	585万人(1992年)
組織体制	150~200名(正職員、技術スタッフ含む)



### ボランティア制度の概要

名称	• Friends of the Kennedy Center (通常運営時のボランティア)
導入時期	• 1971年
登録人数	• ① 通常運営時：650名(内500名が活動) • ② オープン・ハウス：470名(内250名は通常運営時のボランティア)
導入の経緯	—
活動内容	• ①：ギフトショップ、ツアーガイド、ライブラリー、インフォメーション、事務アシスタント etc. • ②：臨時会場の設営・撤去、混雑整理、ギフトショップ、ごみ拾い、インフォメーションなど28種
募集方法	• ①：ケネディセンター・マガジン、フレンズ用ニュースレターに募集掲載。 • ②：同上、米軍機関に会場撤去等のボランティアを呼びかけ。
研修	• ①：半期に1度のオリエンテーション、ハンドブック、各種マニュアルを配布。3ヶ月は仮採用、ボランティア・マネージャーによって業績評価。 • ②：開催の1週間前にオリエンテーション、業務開始前に責任者による説明会。
実費支給・特典	• ①：駐車場代無料、交通費払い戻し、ニュースレター送付、無料コンサートチケット(不定期)、ギフトショップでの割引 etc。 • ②：無料Tシャツ、イベント終了後打ち上げ会への招待。
その他	• 開館以来25年間もボランティアをしているメンバーもいる。 • 自治組織が設けられ、3つの時間帯を3交代制がとられるなど、非常にオーガナイズされた大型のボランティア組織。

## 11. AUTUMN STAGE

素人の高齢者をボランティアとしてリクルートし、語りべや即興劇の役者にトレーニングし、高齢者用施設などへの慰問公演ツアーを行っている。劇場やホールなどの活動拠点を持つボランティアではないが、即興劇というパフォーマンス・アーツと高齢者の生きがい再発見が結びついたユニークなボランティア活動と言える。

### 施設・運営の概要

運営母体	The Encomium Arts, Inc.
所在地	PO Box 43296, Upper Montclair, NJ 07043
TEL	201-746-5184
FAX	201-746-2833
開館年月	1985年
年間予算	年間約1,000万円
組織体制	有給スタッフ：6～8名



### ボランティア制度の概要

名称	・Autumn Stage
導入時期	・1990年（ツアー公演の開始）
登録人数	・30～100名(年によって異なる)、年齢は60～80才。うち劇団員は20名弱、平均婦負例76,7才。
導入の経緯	・ある企業から15人乗りのバンの寄付を受けたことがきっかけ。
活動内容	・ニュージャージー州の中の養老院や病院、デイケア・センター、公民館、診療所、YMCA、大学の演劇科、高齢者社会問題科などで即興劇を上演。
募集方法	—
研修	・一番最初の面接を兼ねたワークショップで「即興とは何か」を理解するための体験トレーニングを行う。 ・素養のある人は、プロの役者のもとで継続的なトレーニングを行う。
実費支給	—
その他	・高齢者用施設を訪れて公演を行うことによって、同じ高齢者がエネルギーに生きている、長い人生経験が“即興舞台”の素材になるなど、施設の高齢者が元気づけられることが多い。 ・公立学校や大学生を対象に行われる公演では、昔の生活・文化を伝えるという意味あいも生じる。 ・1989,95年度のニュージャージー州ボランティアプログラムの州知事賞を受賞。 ・メンバーの体調不良や資金不足なので本年度の活動は停滞気味。

## 12. The PUBLIC THEATER

パブリック・シアターでは、ボランティア制度はないが、インターン制度が導入され、運営の上で成果をあげている。米国の文化施設ではインターン制度を導入しているところは多く、ボランティアに準ずる存在として考えることができるため、その一例としてパブリック・シアターの事例を調査した。

### 施設・運営の概要

運営母体	The Public Theater
所在地	425 Lafayette Street, New York, NY 10003
TEL	212-539-8680
FAX	212-539-8505
開館年月	1965年
複合形態	複合館
施設特性	演劇劇場
座席数	91～299席までの6劇場
年間運営予算	年間12.1億円(1,100万US\$)
自主事業数	—
立地都市人口	731万人(1992年)
組織体制	有給スタッフ約65名



### ☺ インターン制度の概要

名称	インターンの導入状況は各部署の裁量に任されている(以下はコミュニティ事業部における内容)
導入時期	・1993年(コミュニティ事業部の設置年)
登録人数	・3名(ヒスパニック系2名、黒人1名)
導入の経緯	・これまで当劇場に縁の薄かった黒人やヒスパニック系、アジア系などのマイノリティの人種を観客として巻き込むため、その水先案内人となるインターンを採用。
活動内容	・今までパブリック・シアターと無縁だった人を観客として連れてくること
募集方法	・特に系統だった採用制度は採っていない。理事会役員からの紹介やコミュニティ事業部ディレクターのコネクションによって。
研修	・最初にヒントを与え、あとはインターン独自の考えと行動に任せる。「経験を積んでいる」という意識ではなく「仕事をしている」という意識で働いてもらう。
実費支給	・勤務時間は週20時間以上40時間以下(月～金の10時～16時)、週給は一律50ドル。
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンのプロフィールや動機はまちまち。劇場の運営も知っておきたいと考えた女優、イエール大学のアート専攻の黒人などで、コミュニティ事業部の新しい観客開発に力を発揮できるバックグラウンドを備えた人が採用されている。</li> <li>・劇場側のスタッフは、彼らをチームの一員として扱い、手足の係り、雑用係にはしないよう心がけている。</li> <li>・パブリック・シアターのインターンで実績と経験を重ね、実際にリンカーン・センターのマーケティング課に就職した人もいる。</li> </ul>

## 13. MAYAR'S VOLUNTARY ACTION CENTER (MVAC)

MVAC は、ニューヨーク市長直轄の部署として、文化以外の分野を含め、あらゆる分野でボランティアをしたいと考える市民と、ボランティアを採用したいと考える組織や団体をつなぐ機関。市民、機関双方のデータベースを構築し、両者のマッチング業務を行うほか、ボランティア受入団体に対する基礎オリエンテーションやボランティア・マネージャーを対象とする各種ワークショップやコンサルティングも行っている。

### 📄 機関の概要

運営母体	The City of New York
所在地	61 Chambers Street, New York, NY 10007
TEL	212-788-7550
FAX	212-788-7570
開設年	約 30 年前
年間運営予算	(市役所の機構の一部で、部門としての予算は算出不能)
立地都市人口	731 万人 (1992 年)
組織体制	有給スタッフ：5 名、ボランティアスタッフ：約 35 名



### 😊 活動とサービスの概要

活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>①データベース管理・広報：ボランティアをしたい市民、ボランティアを求めている団体のデータベース管理と双方のマッチング業務。</li> <li>②ボランティアに関するトレーニング：ボランティア受入団体への基礎トレーニング、ボランティア・マネージャーを対象としたワークショップなど。</li> <li>③ネットワーキング、啓蒙活動：ボランティア管理者のための非営利団体の年次総会の共催、ボランティア・サービス賞の授与。</li> </ul>
ボランティア希望者に対する活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>パンフの配布、ローカル・ケーブル局やラジオ局での募集放送。</li> <li>希望者には MVAC に出向いてもらい、面接をしながら分野や業務内容などの要望を確認し申込用紙に記入。その場でボランティア募集データベースを検索し、希望にかなうものがあればプリントアウトする（団体への連絡は希望者自身が行う）。</li> </ul>
ボランティア募集団体に対する活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>問い合わせをしてきた団体に「リクエスト用紙」を送付（特に広報は行っていない）。</li> <li>団体は分野によって98種類に分類され、業務の内容、時間などの情報が登録される。</li> <li>オリエンテーションが必要と記載してきた団体には、担当者を集めてボランティア・マネージメントに関するオリエンテーションを行う。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>団体へのオリエンテーションの内容は、ボランティアと有給スタッフの違い、ボランティア導入上の心得、ボランティアの査定方法、理想的なボランティア管理者など。初めて導入する団体は、「無料の労働力」と考えている場合が多いので、まずその考えを改めることが重要。</li> <li>ボランティアを採用すること自体がたいへんだと考えている団体が多いが、実際には人材を捜すことより、ボランティアを使うことの方がたいへん。この認識を持たずにボランティアを導入して苦勞する非営利団体は少なくない。</li> </ul>